

# 児童の詐に就て

文學士 尾田信忠

児童の詐に就ては材料を集め研究せんとかねて心ひかるに本年四月自らある學校に於て中學二三年級程度の生徒に對し詐るべからざることにつき講話を爲し、その要領が生徒の心情に透徹したりと思はるる頃、生徒にこれまで詐りしたことあらばその場合、その實況に懺悔的に記さんことを求めたり、而してその答案を見るに生徒は最も眞面目に、最も露骨に詐の事實を記し、然もただに近頃の出来事のみならず幼時にも溯りて記載せるもの少なくござらず、固よりこの事に關係したる生徒の數は甚だ多しと云はれず從つてその答案に記せることにて詐の凡ての場合を包含せりと言ふ能はざれどもまたその事實の多くの年齢に亘り、少なからざる場合を含みて、頗る教育上の参考に資すべきものありと思はるが故に、先づその答案につき見た

る所を記し、次に詐に關する教育上の注意につき余の意見を述べ、以て識者の示教を仰がんとする。

(一) 如何なる場合に児童は詐るか。  
甲。恥づるとさに詐る、或は試験に不出来なるを恥ち、成績の悪しきを恥ち、無知なるを恥ち、その他自己の所行につき恥ぢて詐ることあり、今こそ生徒の記したるものよりその一二の例を擧ぐれば左の如し。

小學校よりの通信簿の品行の所を黒く塗りて父母に見せたり。

小學校にありしとき何か宿題を出され翌日に至りして來りし者は舉手せよと言はる、余は度々出來ざることわりしが、ある時(この時も實際は宿題をして來らざりしなり)若しあてられたらば口に出た通りを言はん、若し幸に當てられすにすめば出來たこととなる故、先づ手を擧げ置けば善いと考へてその場を繕ひたり。父の歳を友人より問はれ知らざりし故いい加減のことと言ひたり。幾歳の時なりしか忘れたれど、寢小便を爲し、

父母に見らるれば怒を受けんと思ひ、そのまま布團を疊み置き父母に知れざる様に爲し置きたり。乙。恐ろしいと思ふ時に詐る、己の罪惡につき責られて罰を忍る時。或は先方に打解けずして單に恐ろしいと云ふ感じを起したる時に兒童は往々詐るものなり、また甚だ臆病なるがために詐を來すこともあり、これに關する例を舉ぐれば左の如し。

高等二年の時友達と喧嘩し自身も傷を負ひたり、家に歸りてそのことを父母に尋ねられしきその通り言へば叱られると思ひ、叱られるのがこわくて轉んで傷をしましたと詐りたり。七歳の時置時計の中に玉を入れ止まらせたり、後父よりこれは於前の仕業ならんと云はれたる、その時父よりの出様にては或は優しくしましめたと云はんとせしが、その時父は實にこわ顔つきして云はれし故、前後の考も無く否と云ひたり。夜用を命ぜられ他出せざるべからざる時何と

なく恐ろしかりし故眠を催ふして壙へざる如くして就牀したり。丙。直接に他より責めらるるにあらざれども自己の良心に責められて詐ることあり、徒らを爲したるとき、過失ありしときにこの例多し、左の如きは即ちこれなり。學校に往く途中路悪中に轉んで著物を汚し、學校井戸端にて之を洗ひぬれたまま授業を受けたり。

或人余の家に宿し居りしが、數日その後その人家に歸らんとせし時余は父母の命により彼を停車場に送らしめられしが、余は遊ぶ方に熱心にして途中にて彼人に分れ友人と共に我家の近所の原にて遊び、時間を取り家に歸りて用を果したるよりと云ひたり。以上の三種はその他のものに比して生徒の答案中に記されたる例頗る多かりき。丁。金、品物、食物をほしいと思ふ時に詐る、その例左の如し。

ある中學校にありし時、學校の教科書外の参考

書を買はんとしたり、その時兄はかかる本は必要なければ買ふこと勿れと嚴禁したり、然れども余は學友の多くが之を持ち居るを羨み、遂に母を欺きて教科書を買ふなりと云ひ金を貰ひて之を買ひ、歸途計らずも兄に遭遇して事實を發見せられたり。

八歳の時尋常科二年生にて、上級の惡少年に誘はれ町端れの寺に「ヤシヨーマモチ」とて餅を貰ひに行きたり、その時一人に一個宛渡されたるが、余は尙多くを得んと思ひ惡少年の智恵を習ひ姿をかへて再び貴ひに往き見つかりたり。

戊。己の好まざることを強ひらるるときに詐る、左の如きはその一例なり。

余は入浴せざるにしたりと答へたり。

その他一尙試験の際にやさしきことを人より聞かれし時にそのことを何とかごまかして答へたり」等一二の特例あれども、その數甚だ少なかりしが故にここには記さず。

(二)詐りの形より詐を區別して(イ)攻

擊的の詐(一)自護的の詐(二)反抗的の詐の三と爲し得(イ)攻擊的の詐とは、悪事を達せんとするの念より始より攻擊的に人を詐るを云ふ、即ち「一の丁項に於ける第一の例はこの中に入る(ロ)自護的の詐とは、始より必ず人を詐らんとするにあらざれども、自己の過失、徒らにつき自己の不成績、無知等につき、不名譽を厭ひ責罰を恐るより自護的に詐るを云ふ(一)の甲項に於ける第一第二の例同乙項に於ける第二の例の如きは即ちこれなり(ハ)反抗的の詐も亦始より必ず人を詐らんとするにあらざれども先方に打解けず、先方の態度が面白からざるときに反抗的に詐るを云ふ(一)の乙項に於ける「父は實にこわき顔つきして云はれ一故、前後考めなく否と云ひたり」とあるが如きはその例なり。

故に詐りの念より云へば、攻擊的の詐は始より詐るなり、自護的のと反抗的のとは始に詐る念なく、ある事柄に關係して詐らんとするに至るなり、但し實際に於ては始めは、自護的又は反抗的の詐に忽ち攻撃的の詐に變するものあり、その一例を

舉ぐれば左の如し。

小學校にて午後より二三の朋友と學校附近の川に至りて遊び、午後の學科を怠りて受ず、具などを持ひ取りて面白く遊び學科終る頃家に歸れり然るにその事をある友が我母上に申したるを以て家に歸るや大に叱られしが、我母に云ふには決してかかるとせず實際勉強せり、彼が先生に叱られて立たされ又先日余と喧嘩して負けたる故、かかると云ひしなりとて漸く罪を逃れたり。

三種の詐の中答案に記されたるもの多數は自護的のものなり。

(三) 巧みなる假面。詐に普通なる詐と、巧みなる詐とあり、普通なる詐とは、詐る方法の一通りなるものを云ひ、巧みなる詐とは、詐る方法の巧妙にして頗る注意せる人にも往々その術中に陥るものを云ふ、この巧みなる詐に使用せらるる假面の主要なるもの二あり、一は特に善き様見せかくるにて、一は特に悪しき様見せかくるなり、生徒の答案中より前者の例を舉ぐれば左の如し。

吾等の通學せる小學校は住所より二里以上もわらしが日々共に通學せる朋友はただ一人のみなりき、或る冬い吹雪の時朋友と共に出發して途中まで行きしが、原にかかりし時甚だ苦しくなりしかば、道傍の小屋に小休みせしが樂なりければそのままその中にて晝食し、午後四時頃まで小屋の中に火を焚きて遊び、後家に歸りて家人に今日學校に至りしにこの烈しき吹雪に二里以上の所より能く來れりとほめられたりと云ひたり。

小學校三年生の時、家を出で寺の庭にて軍隊遊びをして出校せず、歸宅の後親に本日は學校にて忠孝の道を教へられたりと云ひて欺かたり。友と「ヤシヨーマ」餅を貰ひに行くことを約一友より明日は幸日曜日なれば朝五時半まで来るべしと云はれたらば常は、七時頃の起牀を五時頃下女に起して貰ひ、惡しきことと前より知り居たれば、心に咎むる所あり直ちに外へり出です如何にも感心らしく、一たこととなき庭掃除、水汲などしてありたり。

その特に悪い様見せかくるものは、不具者を装うて人の憫れみを乞ふが如き、繼母に虐待せられ遠地に出稼せる父を尋ねたれども父居らず、郷里に還らんとするも旅費無しなど云ふて他人の救助を求むるが如き類を云ふ、答案中に於ける左の例の如きも亦この中に入るを得べし。

七八歳の頃友と共に夕方より花火を觀んがため某山に至りしが面白味に浮かされて十時頃まで居りたり、さて家に歸らんとせし時道は暗く人は段々少くなり何となく恐おろしくなりたれば友と共に道に迷ひたる風を裝ひ大聲を發して泣き通行人の注意を促し、その同情を得人力車に載せられて家に送られたり。

兩者は使用の場合同じからず、一は人に善く思はしむると共に用ひ、一は人の助を求め人の憫れみを乞ふときによ、然れどもその著しき效果ありて詐の目的を達し易きことは同様なり。

西詐と自他、詐の自分だけに關するものと、自分以外の他人に關するものとあり、その自分だけに關するものとは「これは汝がしたのか」と問はれ

しとき、實際爲し居りながら「しません」と答ふる如きこれなり、その自分以外の他人にも關するものは、詐るに當り罪を他人に嫁するを云ふ、その嫁せらるるもの下女あり、兄弟あり、友人あり、師あり、而して如何なる場合にこれ等の人人が利用せらるるかを生徒の答案中より摘出して示せば左の如し。

下女。植木鉢を破壊すると茶椀時計を破損するとか等の徒らを爲したる場合に下女に罪を嫁すること多し。

兄弟。略右に同じ。

友人。授業料を失ひて友人に取られたりと云ふが如き、河に落ち衣をぬらしたると友人水をかけたりと云ふが如き、自己の過失を覆はんがために友人に罪を嫁すること多し。

師。學校に行かずして學校に行き先生にはめられたれりと云ふが如き、遅刻して歸宅し先生の補習を受けたりと云ふが如き、即ち學校に行くことを怠りし時遊に耽り學校より歸宅の時間を後れし時に師を利用す、この他猫鼠に罪を嫁す

ることあり、これは殊に食物に關する場合に多

し、左の答案例如きその一例なり。

空腹の際菓子を戸棚より出して食ひこれを詰られし時猫或は鼠の所爲ならんと云ふことあり

き。

この他口づから罪を他に嫁せざるも、自然他に嫁する様にすることあり、その例左の如し。

嘗て兄の家にて臺所にて洗面し、流しに於て痰を吐きそのままに爲し置きしが、遂に姉のため

に見つけられ家族中に尋ねられたり、その時我

は姉が多くのものに聞くことなれば、自ら言はざれば現はれじと思ひ、そのまま黙し居て罪を犯れたり。

**五、詐に關する教育上の注意。**既に詐の事實に關

し吾人の知れる所を記したるが故に、以下更に詐に關する教育上の注意につきて吾人の意見を述べん。

(イ) 年少兒童は割合に正直なり、故に詐に關し注意を要せざるが如くなれども決して然らず、年少兒童は正直なれども若深からざるが故に過失

を爲し易く、又活潑なるものなる故徒らをし易

く、遊を好みが故に長く仕事を続ける能はず、

課業を厭ふことあり、これ等の點より自護的の

詐を爲す機會少なからず、殊に成績悪しきもの

故に教育上大に注意せざるべからず、而して又

聽病なるものは、この點よりまた詐を爲し易し。

年少兒童の詐を矯正せざれば、漸次その惡習を

増長し、且つ遂には常習的の詐癖に陥る、即ち

年少兒童には自護的の詐反抗的の詐が多數にし

て、攻撃的の詐が甚だ少數なるものなれども、

若くは攻撃的の詐等にて詐につきそれ／＼目的的

悪習を矯正せざるがため漸次攻撃的の詐の割合

を増加するに至り、且つ始めは自護的の反抗的

で、攻撃的の詐等にて詐につきそれ／＼目的的

若くは攻撃的の詐等にて詐につきそれ／＼目的的

わりたれども、後には詐そのものが面白くなり、

必要もなく詐ること彼の狼と羊との話に於ける

悪少年の如きに至る、故に年少兒童には詐を

矯正することにつき大に注意せざるべからず、

子供は正直なりと油斷し居るべからず。

(ロ) 一般的に又箇別的に兒童の特性を考へて教育を爲すこと必要なり、兒童は徒らを爲し、過失

を爲し、遊戯を好むことが一般的の特性なり、故にかかる過失等につきては、常にあまり嚴酷に叱責することを爲さず、彼等をして正直にその罪を自白し謝罪するの得策なることを知らしむべく、又ある児童は湯に入ることを嫌ふ等のこと往々これあり、これにつきてはただ強て湯に入れるしと云はずして、此の如くなれる原因を明らかにし、之を救治する法を講ずること必要なり。

(ハ) 年少児童には過失、徒らを全く無くならしむること能はず、ただ之より詐に至らしめる様注意すること必要なり、それにつき又早く詐を發見することも必要なり、されば學校より家庭に、家庭より學校に、それぞれ通信して遅刻缺席の臨時の出来事を報ずることを要す、また児童が常に變りて殊勝なる事を爲す場合にも全く油斷し居るべからず。

(ニ) 詐は往々悪友の感化によることあり、年長の悪友詐るべしと教唆することあり、故に交友に注意すること必要なし。

(ホ) 貧富の程度の甚しく異なるものを同一校に置くことは児童を詐らしむる本たることなきにわらず児童は殊に他を羨望す、同學生徒が書き物を持ち居るとときは、之を羨望し之を得んと欲するより詐りて金を求むることその例なきにあらず、又同校生徒の貧富の程度甚しく異り居らざるも、華奢の風行はるるときは之がため児童に詐りの風を醸さしむることもあるが如し「オゴリ」台を爲すに必要な金を得んがため父母を詐るに至るが如きはその一例なり。

(ヘ) ただ無暗に金を少なく使ふ人様すべしと子弟に云ふことより注意を要す、之がため子弟は表面上に金錢を浪費することあり此の如きは詐に誘起しし金に換ふ能はざる品性を害することとなる。ト、點數を多く得る様、善き評語を得る様猥りに獎勵することも教育上注意を要す、児童は一般に名譽心に富めるものなるが故に、かかる獎勵法を行はるがために實際を詐りて一時の名譽心を満足せんとすることあり、この種の弊害は

教授法に巧にして能く獎勵法を用ふる教師の教授法に巧にして能く獎勵法を用ふる教師の教授法に巧にして能く獎勵法を用ふる教師の教授法に巧にして能く獎勵法を用ふる教師の教

授法に巧にして能く獎勵法を用ふる教師の教授法に巧にして能く獎勵法を用ふる教師の教授法に巧にして能く獎勵法を用ふる教師の教

(ル)世の中一般に正直を尚ぶ風を養ひ之により兒童を教育すべし

(チ)平常詐る癖なき人にも危機一髪の際即ち試験の成績により及落何れにか傾かんとするとさ若くは己の所行につき問はれ、答の仕方により責罰を受くるか否かの決定する場合には往々詐ることあり故にかかる時にも適當に身を處して誤らざる様常に指導すること必要なり。

(リ)ある事件につき児童に尋ねるに當り先方にて反抗せぬ様すること必要なり。之へきては名利事が能く罪人を自白せしむる方法など参考とすべきものあらん。

(ヌ)一般に詐の馬鹿らしきことを知らしむること必要なり、生徒の答案中に「外國語の試験の時、一昨日とありしも一昨日の字を知らず、一の字消えかかり居たれば知らぬ顔して昨日の字にて答へたり」と記せるあり、かかる場合の詐ノ馬鹿らしきことは言ふまでもなきことなるが、これのみならず一般に詐は之と同様に馬鹿らしきことを知らしむべし。

▲九十八歳の自轉車乘 英國グレーヴスエンドのチャーレス・ジョンソンと云へるバナナスト派の一僧侶は本年九十八歳なるが今尙自轉車に乗歩き居る由にて氏が此の如く高齢を迎へて尚矍鑠たるは其生涯に亘て一回も飲酒及び喫煙を爲したるとなく絶えず自轉車にて運動を怠らざるが爲なりと氏は歐洲大陸諸國を旅行したるをあり且下細語の新約全書を英文に翻譯中なりと

### ▲馥郁たる市街

佛國南部のグラス市は人口僅に一万二千の小都會なれども香水の製造地として名高く一年四季に分ちて一季の製造高は五百八十四万基瓦(凡そ六千噸)に上り其内二百万基瓦は橙の花より百廿万基瓦はジナスマソの花より百五十万基瓦は薔薇の花より四十万基瓦は薑の花より製造するものにして同市は四時花を以て滿たされ香氣市街に溢れて實に美はしく又芳ばしき市街なりと云ふ